

（議長 寺島渉）

それでは休憩前に引き続き会議を再開いたします。

それでは一般質問続けます。

発言順位 10 番、議席番号 9 番、清水均議員を指名いたします。清水均議員。

清水議員より演壇における資料等の提示許可願がありました。

議長はこれを許可しましたので報告いたします。

（9 番 清水均）

議席番号 9、清水均です。質問通告に従いまして順次質問させていただきます。最初に新たな自治体連携による行政運営の合理化と住民福祉の向上について伺います。

人口減少や少子高齢化の急速な人口の下で、町の行財政運営はかつての右肩上がりの時代から町税の伸びも期待できません。交付税については合併による効果が一本査定になり、今後減っていくとされています。人口規模が小さくなくても上下水道、消防のインフラ経費は減少となりません。一方で社会保障費は高齢化の進行で増大が予想されます。これからは財政規模の縮小と高齢化への発想の転換が求められます。こうした状況下において、町は今後どのような行財政運営を進めようと考えているのかについて町長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

お答えを申し上げます。総論的なご質問でございますので、基本的な町の考え方を申し上げ、細部については担当課長からも補足をさせますけれども、開会の挨拶にも申し上げましたが、これからいずれにしても少子高齢化、人口減少の中における自治体として、住民サービスをいかに維持してその存続を図っていくか、これが大きな課題として常に頭にあることでございます。

その中で財政的なご心配もおっしゃるとおりだと思うわけですが、総体的に考えていただきますと、いわゆる借金の返済、一般会計で 72、3 億の今、起債の残高でございますけれども、昨日も申し上げましたとおり合併特例債及び臨時財政対策債、災害債、教育債、それぞれみんな交付税措置があるものを積み上げて 72 億でございます。従いまして、実質的な全くの税金で負担をしていくというような金額については、私は 20 億まではいかないだろうと思っはいるんですけれども、それと特別会計の起債が病院会計で 25 億、水道で 15 億、農集排で 35 億、公共下水道で 19 億 8000 万と。こういう金額があるわけですが、これはそれぞれ交付税措置もあったり、また昨日のご指摘にもありましたとおり、これからは一部住民の皆さんのご負担をいただくというような使用料の検討というようなものも加味する中で返済をしていくと。こういう財政計画を立てて事業にあたっておりますので、一概に大変な時代になるから一気に縮小し、厳しく住民要望に対しても対処していかなければならないというような萎縮した財政運営というのは、私は少し問題があるだろうと思っております。

やはり、公共施設の維持管理等も含めて、どの程度合理的な整理ができて、そして優先事項は何であるかというような選択をする中で行財政運営をしていけば、私は十分飯綱町は、いわゆる必要以上の心配をする必要はないだろうと思っております。

それよりも、いかに交流人口、また観光客等々、また企業の誘致等々により給水人口なり、交流人口の増加を図る中で、違った面での税収入、またはふるさと納税なんかもそうですが、そういうもので補っていくような、そういう多角的な財政運営をしていかなければならないのと、収入、支出においては、やはり若干公会計の世界になってきました。いくら投資して、いくら還元があるのか。最小限の投資でどうなんだという、そういう今までの行政では余り馴染まなかった手法の考え方も取り入れながら、部門によってですけど、そういう財政運営も必要な部分はあるだろうと思っておりますけれども、しかし大きな財政の私どもの使命は、いただいた貴重な皆様からの収入をどう配分するかが、私たちの大きな使命だというふうに思っております。そういう意味では、余り効率的と言いますか、経済的な面での収支に余りに重点を置き過ぎて、いわゆる福祉的な意味での支出というのをないがしろにするような行政運営も、私は寂しい行政運営であるなと思っておりますが、総体的にはそういうものを加味しながら運営しておるのが今の現状で、これからもそういう方向で進めていきたいと思っております。

（議長 寺島渉）

清水均議員。

（9 番 清水均）

今後の町の行財政運営を考慮すると、それぞれの自治体が行財政課題の全てを独自に進めるのではなく、課題や分野によって近隣市町村と連携し、協力して行財政運営を進め、福祉向上に繋げることがこれからは重要ではないかと思いますが、まず具体的に考えることがあるかについて、町長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

相手のあることですので思っている部類はいろいろあるわけですが、具体的に申し上げるのは少しまだ遠慮したいというふうに思っています。一つは病院事業の運営。一つは公共交通。また水道事業なんかについても、いわゆる連携という一つの方法が取れるのではないかなど。

話は違いますが、長野市の近藤教育長さんとお話をした時に非常に立派な飯綱中学校を造りましたねと。長野市では考えられないような本当に素晴らしい中学校ですよ。ああいう中学校へ長野市からもどんどん長野市の学生として入って使わせてもらえればいいですねと。なるほど、長野市だから長野市の学校へ行かなければ、長野市の住民のままで中学は飯綱の中学の方の校舎を使って、私はそちらの方へ行って授業を受けてきましたという、そういう広域連携もあるのかなど。そんなふうに思いましたけれど、広く扱えば福祉も一緒にやっている部分もいろいろありますし、いろいろな面で他の市町村との連携というのは、これから必然的に検討しなければならない時代になったと思っています。

（議長 寺島渉）

清水均議員。

（9 番 清水均）

今、話が出ましたんですが、私は病院事業と水道事業については、今後、信濃町との連携が可能であり、また取り組みいかなんでは両町にとってプラスになるのではないかと考えております。

まず、病院事業ですが、現状では約 2 万人弱の人口規模の地域に 2 つの公立病院は必要でしょうか。しかも、今後更に人口は減少していきます。両町病院の今後の連携について町長はどのようにしようと考えているか、信濃町に問題を投げ掛けているかについて町長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

只今申し上げましたとおり、極めて相手のある話なので、そういうことを踏まえて答弁を申し上げたいと思いますけれども、結論的に申しますと、お互いに協議していこうと、こういうことで何回か協議の場をもう既に持ったり、また定期的に年何回というようなかたちで、両町の理事者が一つの議題をもって検討しようということで、話を深めております。

ただ、病院事業一つ見ましても、逆の立場で相手のことを考えますと、私が信濃町の町長という立場になりますと、やはり地域に病院は確保したいというような約束の中で、例えば今の職に就いている。そういう中で住民の皆さんのより一層の安心安全を進めなければならないという立場において、この病院の存在というのは大変な存在であるだろうなということが想定できます。

水道についても、これも大いに相談に乗りましょうとお返事はいただいているわけですが、逆に考えると大事な水を途中でストップだなんて言われれば、明日から水ももらえなくなってしまうのかというような、そういう本当に人間の基本的なライフラインのものについての提携をしていくということの信頼性、難しさというものが控えているなと思っています。ただこういう時代です。おっしゃるとおり 2 万人程度の規模で、公立病院を 2 つも維持しているというのは、他には余りないだろうし、ある

意味では統合というか整理というか、やはり相談するだけの十分な価値はあると思っています。

（議長 寺島渉）
清水均議員。

（9 番 清水均）

将来的には共倒れにならないようお願いしたいと思います。次に先取りされちゃったんですが、水道事業ですが、先日、同僚議員が質問いたしました、重要なことなので今一度質問いたします。

聞くとところによると、信濃町は人口減少により町民への給水量が減少し、水が余っているのではないかとされています。また、水道料の値上げも実施されています。一方、当町、特に三水地区の水道事業は、経営的にも厳しく、水源の安定性には疑問があります。また、三水浄水場もだいぶ古くなってきており、建て替えも将来は必要となります。こうしたことを総合的に考えると、信濃町でも可能なら水を分けてもらうことで、水道経営はかなり合理的になるのではないかと私は考えておりますが、町長の考えはどうか伺います。

（議長 寺島渉）
森建設水道課長。

（建設水道課長 森佳也）

議員さんの質問にお答えいたします。確かに信濃町さんは水が余っております。それから中野市さん余っていますかと聞いたところ余ってはいると言っていました。そこまでの話でありまして、飯綱町の旧三水村全体への給水が可能かという水量は、今の土橋水源にはとてもないという状況であります。他にも信濃町さんには黒姫にも水源がございますので、広域的なことで考えた場合にはその水道に対しての考え方はできるのかと思っておりますが、まだまだ入り口の段階でありますので、もう少し時間をいただいて検討をさせていただければ有り難いなと担当としては思っております。よろしく申し上げます。

（議長 寺島渉）
清水均議員。

（9 番 清水均）

三水の方の地区なんです、これ全体でなければもってきてても駄目だということなんですか。全体でなければ駄目だってことなんですか。部分的とか、一部というわけにはいかないわけですか。

（議長 寺島渉）
森建設水道課長。

（建設水道課長 森佳也）

土橋水源から日向の水源のところに水を持ってきた場合に、ある程度のタンクはあるんですけども、三水の今の給水区域全体には行き渡りません。三水浄水場になりますと鳥居川の水量を持ってきておりますので行き渡ります。全体的な改良と言いますか、安全な安心な水という面では、日向水源を使っているところの地区は、まあまあ何とかあるんですけども、普光寺、芋川、倉井地区においては、結局、鳥居川の水を浄化していくというかたちになりますので、できれば安心安全ということを考えますと、もう少し大きな水がもらえればというような考え方であります。

（議長 寺島渉）
清水均議員。

（9 番 清水均）

早急をお願いと思いますが、よろしく願いいたします。

次に北部高校の関係でございますが、北部高校存続への今後の町の支援について伺います。私は過去 3 回、北部高校存続問題について一般質問をいたしました。回答は基本的には県教委が考える

こととのことでした。第 1 期編成計画は、平成 30 年以降になる予定であります。今後、北部高校はどうか、我々はしっかりと関心をもっていきたいと思っております。

今年 1 月 20 日金曜日に白馬高校が存続可能になったということについて、寺島議長、清水副議長とともに白馬村役場に伺い、いろいろとお聞きいたしました。白馬村では議長さん始め、教育長さんほか関係者 3 名の方々から詳しい説明を受けてきました。また、県教育委員会の資料も入手して、それを基に細部に渡り質問させていただきます。

第 1 期高等学校再編計画は、平成 30 年までを目途とした計画になりましたが、全国的に少子化が急激に進行する中、長野県においても同様の傾向が見られ、平成 41 年 3 月に中学校卒業する生徒数は、平成 28 年の 2 万 1000 人程度から約 5000 人減少し、1 万 6000 人程度になります。人口推計によれば、その後も長期的に子どもの減少傾向は続く見通しとのことでもあります。飯綱町もその傾向は当然なりません。

このような状況の下、平成 26 年 11 月からは県において高等学校将来像検討委員会で、これからの長野県の高校教育のあり方について検討が行われ、これらの議論を踏まえて、昨年 10 月に長野県教育委員会から学びの改革基本構想案が発表され、この中に中山間地方の再編基準が示されたことです。特に高校の枠組みについての内容は、都市部校と中山間地校という考え方を設け、高校づくりを推進する。高校の枠組みの定義は、市街地に位置し、比較的近距离にある高校間でグループを形成できる全日制高校を都市部校と位置付ける一方、山間地に位置する全日制高校を中山間地校とする。中山間地校の再編基準については、全校生徒が 120 人以下の状態、若しくは全校生徒が 160 人以下、かつ卒業生の半分以上が当該高校へ入学している中学校がない状態が 2 年連続した場合には、再編の対象となるとされています。再編の対象となった場合は、以下の 4 点が示されました。

他校との統合、新たな高校をつくる。2 として地域キャンパス化、分校化。山間地校の指定。4 として募集停止のいずれかの方策をとる。ただし、学校に活力があるうちに新たな方向を模索できるようにし、1 学年 2 学級になった時点から、県教育委員会と当該校の間で将来の在り方について検討を開始するとのことでもあります。再編の対象となった場合、他校との統合を含めた方策がとられるようでありませぬ。地元の北部高校もその影響は、大きいものと思われませぬ。

また、山間地校の指定については、以下 3 点に示されています。1 として県境に近い地域で近隣の高校と著しく離れている。2 として教育機会の確保の観点から高校の存続の必要性が高いと判断できる。3 として所属する市町村等、地域からの支援を得ながら、高校を単独で存続する体制を整備できる。北部高校の現状からは当面は再編の対象にはならないのではないかと思います。そこで、細部について順次お伺いいたします。

北部高校は現在、全校生徒 309 名で 1 学年 3 学級を保っておりますが、今年の高校後期選抜志願状況の倍率は 0.72 で、昨日後期入学試験が行われましたが、昨年の倍率 0.94 より低くなっております。変更はあると思っておりますが、将来についてどう考えているか、また町として何が対応していくことが必要であるか、町長と教育長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）

寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

将来ということですが、今年の入学試験は今、議員さんおっしゃったとおりですが、最終的にはまだどのようになるか。発表も来週ですので正確なところはまだこれからというところがございます。

最近の動向でございますが、今年 28 年度につきましては、議員さんおっしゃった 309 名という数字が出ております。昨年場合は 290 名。これも 1 学年 3 学級の全校で 9 クラスと。それから 26 年度についても 1 学年 3 学級の全校 9 クラスで 288 人。それから平成 25 年度は、同じく全校で 9 クラスの 302 人ということで、年によって若干変動はあるようでございます。ただ、今後についてということですが、当面は多分、1 学年 3 学級は維持できるのではなからうかなと思っております。

高校は 1 クラス 40 人ですので、3 クラスというと 120 人というところですね。ですので、80 人、90 人ぐらいになると 3 クラスになるという、正確には 40 人ですから 81 人からは、3 クラスになるという編制にならうかと思っておりますので、当面はまだこの 1 学年 3 学級というのは、確保できるのではないかなと思っております。

（議長 寺島渉）
清水議員。

（9 番 清水均）

北部高校が存続することが町にとってのメリットがあることについて、お伺いいたします。

私はしなの鉄道北しなの線が存続する上で重要だと考えております。現在、しなの鉄道北しなの線等を利用して、北部高校に勉学に来ている生徒の約 86 パーセントが牟礼駅を利用しているとのことでございます。信濃町から 49 名、飯綱町と信濃町以外からは 212 名であります。その次に地元で高校があることにより時間的、経済的な負担が少なく、地元の高校に安心して通学させることができます。3 番目として、地域の歴史や文化を学び、住民や行政との連携により地元を愛し、大学卒業後には地元に戻りたいという学生の増加がすると思っております。このようなことから、人口減少、高齢化、過疎化等を抑制し、地域にも活気が与えるのではないかと考えますが、北部高校の存続は町にとってのメリットをどう考えるかについて、町長と教育長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

お答えを申し上げます。しなの鉄道の利用は文句なしにそのとおりでございますけれど、その他の意味でも、やはり県立の高校が当町にあるということは、いろいろな意味で町の PR、町の位置付け、他の人が持つイメージ等々においても非常に大きなものであると感じております。

従いまして、議員も今おっしゃいましたけれども、是非一つ、地域の特色あるということで、いろいろな特色付けをやっていきますけれど、本来の学生の本業である学業を一生懸命徹底して努力をいただき、やはり一定の大学へ行って、そのぐらいの学力を積んで来られる。飯綱町、日本の戦力になるような生徒が増えることによって、この北部高校の存在価値というのは私は益々高くなるのではないかなと、そんなふうに思ってお大いに期待をしておりますけれども、いずれにいたしましても極めて大きな存在であるということは間違いございません。

（議長 寺島渉）
寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

今、町長の方から大変存続の意義が大きいというようなお話がありました。先ほど議員さんの方から、またふるさとに戻って来られるようなというお話がありましたが、正に高校だけじゃなくて、やはり義務教育の中からもずっとやっていかないと、これは高校だけでやっても効果がないと思っております。

今、小中学校でふるさと学習というようなのも取り入れてやってきておりますので、統合に向けてはそれが基幹をなすようなかたちで、それが取り組めればいいかなというところで今、先生方を中心に研究をしているところでございますので、高校だけじゃなくて義務教育の方から、やはりふるさとを知るところをもっと力を入れてやってく必要があるかなと思っております。

（議長 寺島渉）
清水均議員。

（9 番 清水均）

是非そのように保育、小学校、中学校から是非お願いしたいと思います。

次に括弧 2 として、北部高校を愛する会に毎年飯綱町から 55 万円、信濃町から 20 万円の補助、PTA には 30 万 2000 円を補助しているとのことですが、どのように生かされ、効果を上げているかについてお伺いいたします。

（議長 寺島渉）
寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

北部高校を愛する会の活動でございますが、北部高校を愛する会には規約がございます、それに沿って行っているというのが現実でございます。その規約の中には、生徒数確保のための活動ということで、体験入学やら、それぞれの中学へ先生方が訪問をします。それからクラブ活動や地域学習に対する協力と援助。それからスポーツなどのコース学習への援助ということが規約になっておりますので、それに基づいて行っているというところでございます。

成果につきましては、1 学年、先ほどありました 3 クラスがありますが、それらの維持と主に 1 年生はりんご栽培を中心とした地域授業を行っております、キャリア教育にも繋がっているかなというふうに思います。それからスポーツやアートのコース学習への援助によりまして、個性豊かな人間形成の構築ができるのかなど。それに伴って進学や社会人としての適応準備ができていくというところが成果として上げられるのではないかなというふうに思っております。

今後につきましても、この愛する会の規約がありますので、それに沿って北部高校の発展のために行っていきたいということでございますので、お願いしたいと思っております。

（議長 寺島渉）

清水均議員。

（9 番 清水均）

北部高校を愛する会だけですから 55 万円で良いと思いますが、ちょっと少ないんじゃないかなと思っております。また後で出てきますので、その時よろしく願いいたします。

次に私は厳しい状況に直面してからではなく、今から北部高校存続のための支援策を町は信濃町とともに協力し、実施していく必要があると思っております。

先に視察した白馬村では白馬高校魅力化プロジェクトを立ち上げ、様々な取り組みや支援を行っております。この取り組みには、県会議員、白馬村長、小谷村長、両村の村会議長、教育長、商工会長、高校の校長、PTA 会長、同窓会の会長が中心となり、約 22 年という長い年月をかけて高校の維持対策を行ってきました。

お配りした資料は、白馬村の資料で落書きはしてありますけれど、この資料でございます。資料の 1 として白馬高校支援に対する経過。資料 2 として白馬高校支援事業、支援金額等について。3 として平成 24 年度白馬高校魅力づくり検討委員会中間報告。資料 4 として白馬高校の存続、魅力化は、地域の将来に関わる問題です等の資料でございますが、ゆっくり後でご覧いただきたいと思っております。

次に進めさせていただきたいと思っております。白馬村を参考とした北部高校への支援策の提案として、まず 1、進学の向上。志望大学に現役で合格できる学力アップを付けるため、地区の塾や予備校を利用した生徒に対する支援。2 として部活への補助。これまで以上に活躍のための支援拡充。3 として新規部活の創設。スキー部、ゴルフ部、駅伝部などの他校に少ない部を創設。4 として地域おこし協力隊の活用。新規科目や運動部の掘り起こし等。5 として公共交通による通学生徒への補助。これは町外からの電車、バス等の公共交通通学者に対する補助をしてはどうかということなんでございますが、長野市からの通学生の補助は片親のみの 8 名だけのようです。町外からの通学生の約 86 パーセントが北部高校に通学しております。町外からの通学生は、しなの鉄道北しなの線の存続のため、また北部高校存続のためになっており、是非補助をお願いしたいと思っております。6 番として P T A、同窓会員、卒業生に呼び掛け北部高校を育てる懇話会、仮称でございますが設立。地域住民、地域住民参加による北部高校未来を考える会の仮称でこれを設立。8 として例ですが、鹿児島県のある高校では有名な国立大学や早稲田、慶応といった私立からなら 100 万円。それ以外の国公立大学合格者には、30 万円の奨励金を出すこととした。奨励金を始めた 14 年度は、100 万円の対象者こそ出なかったが、鹿児島大など国立大には 18 名が合格。前年度の 4 名から大きく伸びたようです。15 年度には、九州大学に一人合格。100 万円の第 1 号となったようでございます。このように町でもいろいろなアイデアを出し、存続に努力する等を提案しますが、どのように考えるか町長と教育長にお伺いいたします。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

視察を基に実際に現実に実施をしている事例を提唱していただきながらのご提案でございますけれども、私はまず今日いろいろ弱者に対する支援はどうだというようなご質問もございましたけれども、いわゆる飯綱町の小中学生の支援という、それをやはりある程度優先をしてみた中で、その上での高校生への支援、しかも町外の高校生に、例えば交通費の支援にいたしましても、町の学生の支援をした上での支援ということであれば、大変ご理解もいただけるということもあろうかと思っておりますけれども、そこら辺はちょっと慎重に対応せざるを得ないなど。お金があればしたいわけですがけれども、せざるを得ないなど。全くそんなふうに思います。

ただ、町の高校生だからどうかというような意味ではなくて、将来の高校の在り方とか、または一つの部活動等々への地域学習なんていうのは、北部高校の一つの大きな教育目標みたいに校長さん掲げてございますから、そういうものへの協力というようなかたちでのご支援等々については、対応していきたいなとこういうふうに思っておりますけれども、ご提案をいただいたものについて、すぐ対応するという今のところの方針はもってございませんけれど、繰り返しになりますけれども、愛する会等々の例えばそういう規約の一部の見直し、またはそれに伴う一部増額というようなかたちで、当面応援をしていくということから始めていく、やるとすればそういうことかなという感じをしております。

（議長 寺島渉）

寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

いろいろと議員さんからご提案ございましたが、今町長申し上げたのと私も同じでございます。まず、やはり保育園も含めて、小中学校で我々町として考えますとやっていくことがまだまだあるだろうと。やはりそれを考えると、なかなか北部高校の存続ということがありますが、すぐにはいかないだろうと思っております。

先ほども町長からございましたが、愛する会がずっと前からありますので、事務局は北部高校の中にもありますので、そこら辺の皆さんと話しながら、北部高校を愛する会がもっと活発にと言いますか、できるものがないかというのを今後探っていく必要があるだろうと思っております。

（議長 寺島渉）

清水均議員。

（9 番 清水均）

白馬高校へ行って来たんですが、これ存続するには先ほど言いましたんですが、村長さんとか、県会議員、議長さん、教育長さん、商工会長さん、みんな町が、町というか村が一緒になって、22 年という長期間を掛けてそういう存続の意味をつくってきたわけなんです。それをはっきりと、今からやっていってもらわないと間に合わないんじゃないかということで、ただ存続すればいい、存続すればいいと言うことだけだったら、これ口で言うことは簡単なことなんですよね。それを長期にわたってやっている白馬高校へわざわざ視察に行ってきたということなんですよね。それをよく頭に入れてもらって、それでやっていってもらわないと、その対象になったときには、もう間に合わないと思っております。

次に進みます。飯綱町としての将来を見据えた北部高校存続について、現在、飯綱町の中学生以下の人口の平均は 1 学年約 80 人。特に 0 才から 2 才までの平均は 55 人なんですよね、飯綱町だけで。また、4 才から 6 才までの平均は 61 人です。これは昨年 12 月 28 日現在でございます。人口減少が始まっており、北部高校存続のため、今から真剣に検討していく必要があると思っておりますが、町長と特に教育長にお願いしたいと思っております。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

高校の存続を期待していない、希望していないというわけではないので、今現在の助成をいろいろな支援をしてくるといえば、まだまだ義務教育の段階の子どもたちを支援してく部分で欠けている部分があ

るので、どちらかと言えばそちらを優先させていただきたいというのが本音の気持ちです。

私、先ほど若干遠回しに申し上げたんですが、北部高校へ何が何でも進学したいと。あそこへ進学するのが最高のいろいろな意味で嬉しいんだと。こういう高校になるようなご支援というのは大いにしていきたい。塾の費用まで町で負担しましょうというのは、いささかあれですけども、学校内でももう少し平均的なレベルを上げるようなことを、他の高校と違って取り組みたいんだけど、そういう意味の支援はどうだとか、そういうようないろいろな具体的なものに対しては、議員、前向きに捉えて、それが 10 年、15 年というふうに積み重なっていけば、先ほどの鹿児島でいけば鹿児島大、九州大の入学生が出るように、うちも早稲田だ、東大へ一人入ったというような高校になってほしいと、つくづく思っています。

（議長 寺島渉）
寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

先ほども北部高校の活動内容を申し上げましたが、地域授業をもうずっとここ何年かやってきております。今までは第 2 体育館があったのでそこで発表会をやっていたんですが、今年、去年ですか解体をされてなくなりました。そんな関係で今年から飯綱中学校の講堂を借りて、地域授業の発表会を行なえるようになりました。

私、市川校長先生にも来年以降も是非中学と日程を調整をしながら、講堂でやってほしいと。そのときに今年は急だったので、ちょっと中学生が見れなかったわけですが、是非来年からは学年入れ替わっても中学生に見てほしいなということをお願いをしてまいりました。何か教頭先生も来年からは全学年というか、全学年一度にはちょっと無理ですので、学年ごと、クラスごとでも少し見れる時間が取れるように調整してみますかねというような話もありましたので、せっかく飯綱中学校の講堂で地域学習の地域授業の発表会やっているわけですから、中学生の皆さんにも少しでも見ていただければというふうに思っております。それによって、また北部高校への関心も少しでも上がっていただければいいかなというようなことで、お願いをしてまいりました。できるだけやっている内容の魅力をアピールしないとなかなか上手くいきませんので、少しずつではございますが、そういうところでいろいろな多くの皆さんに見ていただければいいかなというふうに思っています。

（議長 寺島渉）
清水均議員。

（9 番 清水均）

なぜこんなに細かく聞かかるといって、先ほど言った 0 才から 2 才までの平均人口が 55 人しかいないんですよ。それで北部高校を存続して行くにはちょっと無理だってことなんですよ。そのために町外の方から来てもらった人には、少しでも補助してもらえば来るんじゃないかなということ。長野県は全体に人口が減っていますから、当然、中山間地校はどこかへ行っちゃうわけですよ。そうするとまた、小学校が 2 校になり、また 1 校になると、そんなようなものになっちゃうですからね。無くなっちゃうと一緒ですから、是非何か対策を考えて町外から当然できるかもしれないし、できないかもしれない。多分できないと思うんだけど、できればそうやって人の集めをするということも考えていただきたいなと思って、それでこういうふうに細かくちょっとやらさせていただきました。

もし、北部高校がなくなった場合、どういうメリット、デメリットがあるかちょっと教えていただければと思っておりますが、教育長さん、お願いいたします。

（議長 寺島渉）
寺島教育長。

（教育長 寺島政次）

急にメリット、デメリットと言われましても、ちょっと今即答はできません。

（議長 寺島渉）

清水均議員。

（9 番 清水均）

それじゃまた、この次質問いたしたいと思いますので、それまでに一つよろしくお願ひしたいと思ひます。ちょっと早いですが、以上で質問を終了させていただきます。

自治体関係関連事業や北部高校存続のために町民の皆様、行政議会が知恵を出し合ひ、地域愛を主体に前進し、新しい飯綱町づくりを進めていければと思ひております。飯綱町全体が一步一步前進できるよう願ひを込めて質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（議長 寺島渉）

清水均議員、ご苦勞様でした。

暫時休憩に入りたいと思ひます。

再開は 2 時 15 分ということにします。